

街道をゆく NO3 歴史と文化を訪ねて 伊佐家見学&周辺散策



重文：伊佐家住宅 → 上津屋御旅所 → 流れ橋と浜茶 → 〈昼食〉流れ橋付近
 → 石田神社・算額・十三重の塔 → 四季彩館、元都々城小学校跡 →
 「八幡のお茶の話&茶の淹れ方体験」と「流橋焼き工房見学」

伊佐家を訪ねて

11月1日朝まで続いた雨が止み、高井輝雄さん(東高野街道まちかど博物館「城之内」)と出口修さんに案内して頂き、伊佐家に行ってきました。伊佐家は江戸時代



国の重要文化財に指定されている。参加者23人が二手に分かれ、伊佐さんご夫妻から説明を受けました。まるごと館では月一回、出口修さんに

八幡の歴史を講義して頂いて、そこで上津屋村の詳しい話を聞きました。
江戸時代の上津屋村は3つの集落
 当時八幡は八幡神領 6500石(57%)とそれ以外の東部(9村)があり、その2つ



神領では社務家が力を持っていた。上津屋村は232軒(172年当時)、1001石。村を流れる木津川によって東西に分断され、西に浜垣内と里垣内が、東には東向と、明治22年まで続いた。それ以降東向は久世郡こ、里と浜は綴喜郡に。村は幕府領庄屋2名と転法輪三条家庄屋1名、大炊御門家庄屋1名で運営されていた。伊佐家は幕府領浜の庄屋を

務めた。東向には庄屋がなかった。浜垣内には寺が3つ、里垣内には神社や寺が1つずつあったのに東向には寺や神社もなかった。又、西側に住んで東向に畑を持つ人もいて彼らはどうしたと思われませんか?

船が盛んに使われた

村として渡し船を1艘もっていたそうです。川の東西を行き来するのに必需品だった。今では想像し難いけれど、船が頻りに通って、淀伏見から厩肥他の肥料などの物資の運搬や人の往来によく使われたそう

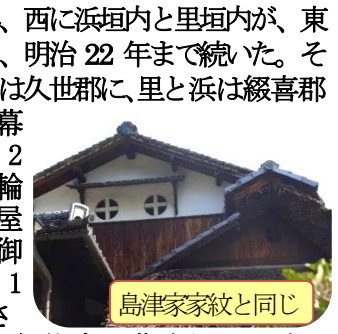
八幡まるごと館だより

2016年11月20日/78号
 <発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
 (TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)
 (E-MAIL) yawata@marugotokan.net
 ホームページは <http://marugotokan.net/>
 又は、八幡まるごと館で検索して下さい

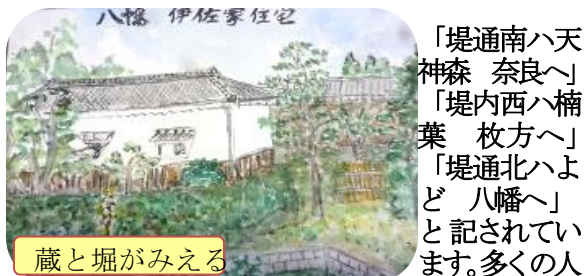
写真や絵のご提供ありがとうございます。



のものは全く別個の時を刻んでいたようです。



母屋から裏の蔵への高縁です。だから、独自の船着場があった。
人もよく集まった
 「上津屋御旅所」前の伊佐家が文政2年(1819)に建てた道標には、「川越東へ長池 宇治へ」



八幡 伊佐家住宅

「堤通南ハ天神森 奈良へ」「堤内西ハ楠葉 枚方へ」「堤通北ハよど 八幡へ」と記されています。多くの人が

蔵と堀がみえる

が行き来したのでしょう。相撲の興行や歌舞伎もよく行われ、賑わったと聞きます。ひとが集まった。

東向きに住む人たちの不満

東向きに住む人たちは不満があった。庄屋さんがいないため、いつも後回しにされたような感じ。実際そうだったかもしれません。1831年に庄屋の要求をして加役庄屋(補佐)を得たと聞きます。また、西側と同じ石田神社の氏子でありながら、川の東からしか手を合わせる事が出



江戸時代 上津屋村の暮らし

上津屋では 2500 もの古文書が見つかったそうです。だから、当時の様子がわかる。少し聞いただけでも想像が出来、当時生きていた人たちがいて、今があると思える。

畑では米、雑穀、芋、人参、ごま、お茶、桃、ナス、大豆、モロコシ、あね、大根等。肥料として干鰯を使って綿がよく育ったそうです。嗜好品でたばこがあった。塩、みりん、味噌、醤油は今より



見事なソテツ



道標の前で

きっと本物でしょうね。米の消費量は今の4倍ぐらい。5人組があり、ハードなルールもあり、その中でリクリエーションとしての日待ち講があった。農作業をしない日も村で決めた。

まるごと館の生産者の方々から聞くと、今でもそれらはあるそうです。

伊佐家が建てられたのが282年前の1734年。説明の中で、日記が残されていると聞きました。庄屋の仕事はどうだったでしょうか。渡しの船を作るのも、村を運営するのも、それ以外にも、たくさんの難題もあったことでしょう。

お屋敷の堀、うまく考えてある。当時は水があり、木津川から舟で直接屋敷に出入りできたそうです。色々工夫があり、上手く使いこなしておられた。大きなカマドもありましたね。

このお屋敷を維持管理するのは大変です。あの見事な茅葺一つだけでも、他にもたくさんありますもの。4月のコンサート楽しみです。♪



流れ橋と浜茶

流れ橋と浜茶の景観 !!

延々と続く茶畑 いいですね。市内の茶農家は約15戸で面積が約15ha だそうです。



流れ橋

「流れ橋と浜茶」は日本遺産第1号になりました。流れ橋は正式には上津屋橋。全長356m、幅3m。昭和26年まで渡し船があったが、廃止されS27年に木造で作られ、流れることで水の抵抗を少なくした。2014年8月まで21回流されて、今年75cm橋脚を高くした。

江戸時代にたくさんの人で賑わっていたという面影はないですが、思いを馳せることは出来ます。知らないと素通りしてしまいます。

石田神社へ 算額に興味ひかれ

702年牛頭(ごす)天王社。明治になり石田神社と改称した。祭神は素戔鳴尊。2度焼けて、江戸中期から後期に再建された。『明治の廃仏毀釈にもかかわらず、神仏混淆の宮寺の跡をとどめるのは市内でここ石田神社だけである。これら建物群をはじめ古文書に至るまで大切に保存されたのは、上津屋村の氏子中の強い結束と努力のたまものである。』(八幡市観光協会より)とあります。興味をそそられます。そこら辺が石田神社の凄さですね。



石田神社

拝殿には、明和2年(1765)に上津屋村庄屋の伊佐慎吾氏奉納の算額があります。見えませんでした。『算額(さんがく)とは、江戸時代の日本で、額や絵馬に和算の問題や解法を記して、神社や仏閣に奉納したものである』(ウキペディア)とある



石田神社の算額

ように当時流行っていたようです。出口さんが書いて下さった鶏税の問題に翌日3人の方が解いてくれました。慎吾さんが17歳の時のことだそうで、筆者は算額を見つけ時間を忘れて夢中に。たよりが遅くなった次第です。

流橋焼き工房へ

代表の松田一男さんからお茶の話聞き、紅茶と浜茶を頂きました。八幡のお茶は覆下



流橋焼き工房



松田一男さん

栽培という方法で育てられ、新芽の生育中、茶園を黒い遮光資材で覆い、一定期間光を遮る。とても手間がかかっているのです。まろやかな旨味や甘味のあるお茶になるそうです。

松田さんはお茶から焼き物まで熱く語って下さいました。八幡のお茶の普及を、粘り強く取り組んでおられる。

八幡を知ること愛着が持てる

高井さん、出口さん、参加者の皆様、ありがとうございました。コミバス初体験で帰りは貸し切り状態でした。又、高井さんや出口さんの資料、「たんけん八幡」や探求する会の文章等参考にさせていただきました。お気づきのことがありましたら、宜しくお問い合わせ致します。楽しい1日でした。(うえたにじゅんこ)

